

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

307号

2016年9月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

百害あって一利なし！サードの韓国配備を撤回せよ！

韓米両国政府は、THAAD（サード・高高度ミサイル防衛システム）の韓国配備を決定し、何の前触れもなく慶尚北道星州(ソング)郡に配備すると電撃発表した。このサードとは、大気圏外から飛行してくる弾道ミサイルを、上空40～150kmの高高度で撃ち落とすというミサイル防衛システムである。そのためXバンドレーダーと計48発の迎撃ミサイルがセットになって相手からの攻撃に備えるという。ただ、その迎撃能力は決して100%ではなく、仮に複数のミサイルが飛行してくれば、その内の数発が着弾してしまう可能性がある。さらに迎撃距離が200～250kmであり、星州郡からだとな数ヶ所の米軍基地は範囲内だが、首都ソウルは範囲外だ。

また通常の短距離ミサイルには全く役には立たないので、配備そのものの有効性自体が疑問視されている。朴槿恵大統領は「北朝鮮の核・ミサイルの脅威」を云々し

「国民と国を守る義務がある」と言うが、一体、誰を守るために莫大な費用を掛けるつもりなのか。

約1000km先まで探索できるというXバンドレーダーは、北朝鮮はもちろん中国の北京やロシアのウラジオストックまで範囲に入るため、北朝鮮のみならず、むしろ中国・ロシアのミサイルを無力化するのが目的だと言われている。そのため、それらの国が猛烈に反対するのも至極当然である。とりわけ中国は韓国に対して経済制裁を始め、韓中関係は最悪の状態である。このまま配備が強行されれば、すでに配備されている日本の青森・京都とグアムを合わせ、米国の東アジアのミサイル迎撃システムは完成段階に至るだろう。

これにより朝鮮半島とりわけ韓国は、新冷戦（韓国・米国・日本 対 北朝鮮・中国・ロシア）の前哨基地となり、各国に核軍拡を誘発し、核戦争の危機は一層高まるのは火を見るより明らかである。

またXバンドレーダーは、その性能から非常に強力な高周波の電磁波が発生するため、周辺100mは立ち入り禁止で、3.6kmは立ち入り制限エリアとなる。これはその範囲の影響がまるで電子レンジの中のようなものであることを考えるといかに危険で、人体はもちろん、あらゆる動植物に悪影響を与えるものであるかが容易に分かる。しかし朴槿恵大統領は「100m以上は安全である」と嘘の説明をしている。

この韓国配備に激怒した星州郡民たちは連日、決死の配備撤回闘争を展開している。セヌリ党の支持基盤でもある星州郡民



▲サード韓国配備反対を訴える韓国民衆

たちの激烈な反対の声に、朴槿恵政権は配備先の変更も示唆しているが、星州郡民たちは自分たちの地域だけでなく、韓国への配備そのものに反対していることに注目しながら、全ての民主勢力がこの闘争に合勢する必要がある。米国に従属し、売族性を一層露わにした朴槿恵政権は即刻退陣しなければならない。

人体・動植物への悪影響と環境破壊、周辺国に対する危険な影響をもたらす朝鮮半島の緊張激化、配備に伴う莫大な費用、ミサイル迎撃能力は100%でないなど、そのどれをとっても「百害あって一利なし」なのである。サードの韓国配備決定は即刻撤回されなければならない。（啓）

サード配備撤回などを求め 全国の仲間と共に抗議行動を行う 駐日米国大使館・韓国大使館抗議行動

朴槿恵政権が国民を無視して、米国と結託しサード配置を決定、8月から韓米合同軍事演習を強行することに対し、韓統連・韓青・民主女性会・学生協は8月12日(金)、東京の駐日米国大使館前と韓国大使館前で抗議行動を行い、韓統連大阪本部のメンバーも参加した。



▲米国大使館前でサード配備反対を訴える抗議団

日本各地から集まった韓統連の代表30余人は、事前に米国大使館側に抗議行動について連絡して了解を得ていたが、警察40余人が抗議団を阻止し、代表3人だけ通行を許可すると強弁した。粘り強い交渉の末、10人の代表団が大使館前で抗議行動するとともに、他のメンバーは大使館から離れた場所ではあったが、代表団とともに「サード韓国配備決死反対」「韓米合同軍事演習中止」「朝鮮戦争の平和協定締結」などを要求し、1時間にわたり抗議行動を行い、代表団はオバマ大統領に送る抗議文を米国大使館政治部の担当官に伝達した。

引き続き、韓国大使館に抗議行動を展開したが、警察は再び抗議団を阻止しようとした。警察との交渉の末、5人ずつで抗議行動をすることになった。

抗議行動では警察が取り巻く中、大使館に向かって「朴槿恵政権退陣」「サード韓国配備決死反対」などと書かれた横断幕とプラカードを掲げながらシュプレヒコールを叫び、朴大統領に対する抗議文を朗読するなど、2時間にわたり抗議行動を行い、最後に抗議文を韓国大使館側に伝達した。

平和・統一の実現のために、 韓国民衆と共に闘おう！ 光復71周年在日韓国人関西集会

日本帝国主義から解放されて71周年を迎え、韓統連関西協議会主催で「光復71周年 祖国の平和と自主統一のための在日韓国人関西地域集会」が8月14日(日)、尼崎中小企業センター(兵庫県尼崎市)で開かれた。

集会では、崔孝行(チェ・ヒョハ)韓統連兵庫本部代表委員が主催者挨拶を通じ「わが民族は71年前に植民地支配から解放されたが、直後に米国の支配によって祖国の南側では真の独立を勝ち取ることができなかった。そして、その状態は現在も継続している」と述べ、「1日も早く自主権を回復して、平和統一を実現できるよう共に闘っていきましょう」と語った。

次にサード韓国配備撤回闘争など、この間の韓国民衆の闘いをまとめた映像資料が上映された後、李俊一(イ・チュニル)韓青大阪府本部委員長が、8月12日に行った駐日米国大使館、韓国大使館抗議行動の報告を行った。



▲情勢講演を行う朴明哲総務次長

続いて集会では、朴明哲(パク・ミンチョル)韓統連中央本部総務次長が情勢講演を行った。朴次長は講演を通じ「韓米両政府が韓国内にサードを配備する目的として、北朝鮮の核・ミサイルから韓国国民を守るためと主張しているが、実際にはグアムや米国本土をミサイル攻撃から守るため」と指摘するとともに、「韓国に配備されれば、配備に強く反対している中国との関係も悪化し、韓国経済にも悪影響を与える」と語った。

そして、8月22日から実施されている韓米合同軍事演習についても「朝鮮半島の戦争の危機が極度に高まる」とし、「サード配備撤回、平和統一の実現を訴え闘っている韓国民衆と固く連帯し

て、私たちも闘っていこう」と訴えた。

講演後は、質疑応答と各団体代表の決意表明などが行われ、最後に金隆司(キム・ユンソ)韓統連大阪本部代表委員が閉会挨拶を行い、集会は終了した。

朝鮮半島の核問題について 活発な意見交換を行う 韓統連生野支部定期学習会

韓統連生野支部は8月7日(日)、生野支部事務所において支部会員や日本の友人たちが参加する中、「朝鮮半島の平和実現のために②-朝鮮半島の核問題とその本質」と題した学習会を開いた。

この学習会は、今日の緊迫した朝鮮半島情勢を理解する下地作りのため準備された。最初に金昌秀(キム・チャンソ)生野支部代表委員から挨拶に併せ、今回の韓国星州へのサード(米国による高高度ミサイル迎撃システム)配備について述べられ、続いて金昌範(キム・チャンボム)社会部長より本題についての報告が行われた。

報告では、①朝鮮戦争休戦後、米国が朝鮮半島への核兵器配備を始めた経緯とその意味、②米国

が1991年から指摘した北朝鮮の核疑惑に始まり、今年1月の北朝鮮による水爆実験に至るまでの主に朝米関係と、そうした経緯に関わる背景と理由について報告と説明がなされた。

そして導き出された結論として①朝鮮半島における核戦争の脅威は米国の核配備から始まった。②米国が「北朝鮮の核疑惑」を取りざたし始めた当時、北朝鮮に核兵器開発の意思はなく、むしろ南北間は軍事緊張緩和と和解の方向に進み始めていた。③さらに米国の対北敵視政策と覇権実現の意図と行動が北朝鮮からの対抗措置をもたらし、ついには北朝鮮が自主権を守るため核兵器開発に踏み切った。④朝鮮半島の軍事緊張をなくし平和確立へと動き出す唯一の契機は、朝米間の対話を通じた米国の敵視政策の解除のみであり、南北海外の自主的平和統一運動がその方向づけに大きく資するなど述べられた。

報告後は長時間にわたって意見交流が行われ、多くの参加者たちからも平和実現に向けた実践的意思が語られた。

〈次代を担う若者たち－韓青大阪本部 活動紹介－〉

アンニョンハシムニカ、韓青大阪本部の李俊一(イ・チュニル)です。そろそろ暑さもひと段落してきましたが、皆様いかがおすごでしょうか？韓青大阪本部では8月5日～7日まで、韓青兵庫・京都の仲間たちとともに「西日本サマーキャンプ」を開催しました。

今回のサマーキャンプでは、初めて香川県の小豆島を訪ねました。神戸港からフェリーで2時間。船内でもゆったりとした時間を過ごし、小豆島に到着。青い空、青い海、白い砂浜と、美しい自然に囲まれた素晴らしい環境でした。

講習会では、車一展(チャ・イルジョン)韓青兵庫本部委員長の自分史と班別討論、そして李俊一韓青中央本部副委員長による「現情勢から見る中央委員会の意義」と、みっちり学習と討論を行っていきました。

また学ぶだけではなく、海水浴や花見、島内観光など小豆島の自然を満喫する楽しいレクリエーションも行いました。クライマックスはおなじみの民族文化マダン。韓青大阪本部はソルチャンゴを発表しました。初心者も参加しましたが、一生懸命民族のリズムを叩いていたと思います。

また、8月にはサード配備と韓米合同軍事演習に反対する駐日米国大使館、韓国大使館に対する抗議行動も全国の同志たちとともに貫徹しました。

暑い夏が過ぎ、いよいよ秋に突入です。韓青では9月11日に中央委員会を開催し、来年の進歩的政権交代に向けての決意を高めていきたいと思っています。また、9月25日には韓青生野北支部の定期大会を開催します。大きな行事が続きますが、韓青大阪本部一同、固く団結し、成功に向けて頑張っていきたいと思っています。チャル プタッカゲスムニダ(よろしくお願ひします。)



▲サマーキャンプでの記念写真

東アジア平和キャラバン・イン韓国

全日本建設運輸連帯労働組合近畿地方本部
書記長 西山 直洋

今号のチヤジユに「朝鮮半島の統一と東アジアの平和のための日韓連帯訪韓団」のメンバーで、今回キャラバン隊を構成して韓国各地を訪問した西山直洋さんに、キャラバン隊の活動報告を書いて頂きましたので紹介します。

2016年8月11日から大阪を出発し、韓国にキャラバン隊を派遣した。目的の一つは14日から15日にソウルで開催される「8・15平和統一集会」に、日本代表団として参加して日本で弾圧される沖縄問題を共有化し、東アジアの真の平和を求めため、そして、朝鮮半島の統一を妨害しているアメリカの共和国敵視政策（サードミサイル配備問題）を連帯して闘うためのキャラバンとして行くことが目的で朝鮮半島にキャラバンカーを走らせました。

12日の晩、下関港をフェリーで出発（20時）。13日の朝（8時）、釜山に入港して入国審査。無事、入国手続きを済ませキャラバン隊は一路、珍島（チント）郡彭木（ペンモク）港へ約450Kmの道のり、カーナビのおかげで無事キャラバン隊は到着した（高速道路を降りてから約1時間）。



▲韓国各地を訪問したキャラバン隊メンバー

2014年4月16日の大型旅客船「セウォル号」が珍島沖海上で転覆・沈没した事故の追悼をおこない、日本人としてもこの惨事は忘れてはならない。なぜなら新自由主義が起こしたこの事故は多くの高校生を犠牲にした。子供たちを亡くした親たちの真相究明と国家責任追及運動は現在も続いている。ある意味、日本の福島原発事故と同じである。

突然、304名（295名死亡、9名行方不明）が、特に250名の修学旅行中の事故で子を亡くした親たちの気持ちは限界に達している。そして、現場に行くことでこの悲しみが切に感じられた。中学生2名も今回キャラバン隊に同行し、彼女たちも同じ思いで追悼してくれた。

その後、全州（チョンジュ）市まで行き、連帯する

仲間と再開（民主労総全北本部のメンバー）。夕食で交流し、翌日、ソウルに向けて出発した。

ソウルに到着後、宿舎のすぐ横にあるセヌリ党本部前で闘っている民主労総勤労労働組合のコレクティブ闘争のテント前で連帯闘争し、セヌリ党に声をぶつけた。その後、光化門に行き、セウォル号の慰霊テント、「平和と統一のための1000人代表者円卓会議」に参加。そして、日本大使館前でおこなう「平和ナビフェスタ」に参加し、市庁前広場でのサードミサイル配備反対集会や平和統一集会に参加した。

16日早朝ソウルを出発したキャラバン隊は、民主労総金属労組の争議現場で忠南（チュンナム）地域にある甲乙オートテック闘争現場で激励連帯し、その後、サード配備問題で住民が反対している星州にキャラバン号を走らせ現地を見学した。

町並みは町中に横断幕を張り巡らせ毎日、夕刻に反対のキャンドル集会をおこない意思表示している。星州の特産品は夏の果物である黄色い甘いウリで、この時期は韓国全土のどこでも星州の瓜がスーパーに並んでいる。サード（THAAD）の配備で電磁波が農作物をだめにするなどとして、政府の突然の配備表明に住民達は怒りの声を上げている。今は、政府側が配備反対の活動家達が星州に入り、配備反対を住民達に押しつけていると逆報道して分断工作をはかっている状態である。

私たちが京都のXバンドレーダー基地反対闘争で日韓連帯して米軍のアジア侵略政策と闘い、真の国際連帯を目指していく。（了）

【投稿】

今は昔

1974年の夏、前年日本からKCIA（韓国中央情報部）に拉致された金大中元大統領の現状回復を求める集会・デモに参加するため、東京へ夜行列車に乗って一車両を占領するかのよう韓青盟員が向かっていた。

金大中氏を朴正熙（パク・チョンヒ）軍事独裁政権から救出する100万人署名運動を展開して、日曜日は一日中、平日は夜間に救出署名の戸別訪問を行い、署名とカンパを募っていた。その集めた署名を携え東京日比谷公会堂での集会へ行く列車であった。



▲東京で開かれた在日韓国人民衆大会

盟員たちは意気揚々と明日の集会や、その後の駐日韓国大使館への抗議行動の事などを話していた。ビールを飲んで眠気のきた先輩は、手慣れたように座席のマットを外し通路に敷いて、その上に寝転んだ。車掌は、それを避けて点検に回っていた。注意もされず、豪気なものだと私は感心していた。

岐阜大垣で列車を乗り換え、東京まで走行。10時間程の旅。私は初めての東京集会で見えるもの、ただただ珍しく驚くばかりだった。しかし、東京ではもっと驚く目に合うとは夢にも思っていなかった。

東京に着き、韓青中央本部兼東京本部のコンクリートのくたびれた3階建の事務所に入った。中には3人程の常勤が居り、私は韓青大阪本部の新しい常勤として紹介され、2階の会議室の椅子に落ち着き少し仮眠をさせてもらった。

集会場は満杯になって来た。アジョシ（おじさん）、オモニ（お母さん）、トンジ（同志）の声

が飛び交い、「こっちこっち早く座って」などと喧しい場内に開会のアナウンスが流れた。緞帳が開き、檀上には長机に韓民統の議長団や金大中救出委員長・婦人会会長・韓青中央委員長たちが座っている。

大喝采が轟く。「金大中先生を救出するぞ！」の呼号が会場に響きわたる。



▲韓青はデモの先頭に立って金大中氏の救出を訴えた集会を終えデモの列に加わる。プラカードを持ち長い列に続いて行く。先頭の宣伝カーのシュプレヒコールの声に合わせて大きな声で叫ぶ。「日本政府は金大中先生の現状回復を果たせ！」「朴軍事独裁政権打倒！」、デモは2時間程続く。

声も枯れた後に、青年はバスへ乗るように指示される。駐日韓国大使館に直行。赤坂の大使館前の坂下には機動隊が2～300人程バリケードを築いていた。青年達は雪崩を打って機動隊に向かって行く。小競り合いから、殴り合いへとエスカレートし、青年たちは何としても機動隊の妨害を跳ね除けて大使館へ行こうとする。抗議団の一部は裏道を抜けて大使館前に突入した。私も靴が脱げたまま、足を踏まれながらも抗議を続けた。

あれから43年。日帝植民地時代の永さもとっくに超え、未だ統一はならず、10年間の南北和解の時代も過ぎ去り、再び朴正熙の娘が大統領として悪政を行っている。来年こそは民主政権を打ち立てて、統一に近づいて行かねば。今の反動時代が、今は昔と思える日になることを願って。

K・K

◆◆コラム◆◆

プルガサリ伝説(上)

7月末に公開された映画「シン・ゴジラ」が話題らしい。今回のゴジラは怪獣同士の対決ではなく、ゴジラという恐るべき災害とそれに立ち向かう日本国政府が描かれているとのことだ。

さて、ゴジラと聞くと思い出す映画がある。北朝鮮のゴジラと呼ばれる怪獣映画「プルガサリ(불가사리)」だ。北朝鮮で怪獣映画とは少し不思議に思えるが、制作した1985年当時、日本から特撮チームを招くなど、北朝鮮映画に画期をもたらそうとした意欲作だったらしい。結構、有名な映画だ。

映画「プルガサリ」は時代劇であり、役人の搾取に抵抗して立ち上がる民衆の姿が主軸になっている。ここでプルガサリは農民軍に味方する怪獣として登場する。役人に抵抗して捕らえられた鍛冶匠が、死を目前にして飯粒で作った怪獣プルガサリ。鉄を食べて、どこまでも成長していくプルガサリは農民軍とともに都へ攻め上がり、固い体で火も矢も物ともせず、敵の城壁を叩き壊す無敵の活躍を見せる。し



▲怪獣プルガサリ

かし国王を倒した後は、鉄を大量に食うことで人々を困らせることになり、やがてこの世から去ることになる。少し物悲しい結末だ。

この映画の元になったのは、古くから韓国に伝わる説話の「プルガサリ(불가살이、不可殺伊)」だ。高麗末期、飯粒で作られた小さな獣の像が生命を得て、国中の鉄を食い尽くすまで成長した不死身の怪物と語られている。また熊の体、象の鼻を持つ獣で、悪夢を退け、邪気や疫疾を追い払うとも言われている。朝鮮時代の民画や石刻にくっつかその姿が見られる。

伝説上のプルガサリは魔除け、火除けの聖獣であり、また戦乱の恐怖、亡国、はたまた貪欲への戒めという多面的な属性を持つ存在だ。さらに、高麗末という混乱の時代背景のもと、国を滅ぼす怪物として語られるプルガサリは、社会の変革という要素も持っている。映画のプルガサリが農民とともに国を倒したのは、そのようなプルガサリの性格に起因している(好)

◆◆行事案内◆◆

| | |
|---|---|
| <p style="text-align: center;">日朝ピョンヤン宣言から14年 日朝国交正常化の早期実現を求める大阪集会</p> <p>日時：9月16日(金)午後6時30分～ 場所：エルおおさか (京阪・地下鉄天満橋駅下車徒歩7分)</p> <p>内容：講演「初めて見たピョンヤン —日朝国交正常化の展望と課題—」 講師：服部良一さん (元衆議院議員、東アジア青年交流 プロジェクト共同代表)</p> <p>報告「東アジアの平和キャラバン サード配備が決定した韓国からの報告」 報告者：西山直洋さん(日韓平和連帯事務局次長)</p> <p>参加費：500円(資料代として) 主催：日朝市民連帯・大阪 TEL090-8209-0848</p> | <p style="text-align: center;">韓統連セミナー 10・4宣言9周年 朝鮮半島の戦争と平和 —南北関係の改善に向けて—</p> <p>日時：10月2日(日)午後2時～ 場所：東成区民センター (地下鉄今里駅下車2番出口から徒歩3分)</p> <p>内容：主催者挨拶 講演 講師：康宗憲さん(韓国問題研究所代表) 質疑討論 他</p> <p>参加費：大人：800円・青年学生：500円 主催：韓統連大阪本部 TEL06-6711-6377</p> |
|---|---|

編集後記

リオオリンピックが終わりました。開催期間中はどのチャンネルを見てもリオオリンピックと2020年東京オリンピックの話題一色、しかし、東京の前に2018年冬季オリンピックは韓国の平昌(ピョンチャン)で開かれます。どんなオリンピックになるのでしょうか?楽しみです。(ソソ)